

## 現状

旧木下家の一部を利用して様々なイベントが行われている。しかし全体での活用は見られず、放置されてしまっているところも見られ、魅力が全て伝わっているとは言えない状況である。そして、日南町では少子高齢化や人口減少が進む。それによって町を支える一人ひとりの負担が大きくなり、さらに問題に拍車をかけることとなる悪循環が予想される。

### 地域問題

- ・人口減少・少子高齢化
- ・旧木下家の歴史や魅力が十分に伝わらないこと
- ・日南町の魅力が周辺で留まってしまっている事



### 解決策

まずは地元の人が訪れたいくなる活用提案とする。  
 地元の人が旧木下家への愛着と誇りを持つことで他の地域への発信がより深みを増し、旧木下家を知ってもらうこと、日南町に移住したいと思ってもらうことに繋がるはずである。  
 その魅力が人々に伝わるような活用を行う。



## テーマ

日南町での日々の暮らしの一部となり、人々の一部となる、  
 「地域の茶の間」を築いていく。

## 活用内容

### 1 なんぞかんぞストア

旧木下家の周辺にはスーパーがなく、食品や日用品は少し離れた場所にいかなければ手に入らない。車を持っていない人や免許を返納した人、高齢者にとっては買い物が一苦労となる。そこで、長屋門に買い物ができる場所を設ける。ここでは日用品や食品など買うだけでなく、地元の人が作った野菜などを売ることができる直売スペースも設ける。

さらに、一苦労となっていた買い物が楽しいひと時となるよう、気軽に休憩できるスペースを設け、通常の購入のみのスーパーとは異なり、買い物終わりに腰掛けてゆっくりしたり、話したりするなど町民のいこいの場ともなる。



### 2 おためし町びと

日南町が力を入れている部分として、日南町への移住・定住がある。旧木下家を通してその活動を支援するような機能を加える。2~3人程度を想定して生活できるように整備し、短期~長期間日南の町びとに混じって生活することで移住・定住の後押しをする。個人の居住スペースに加え、体験者が集まることができるシェアハウスのような空間を設け、感じたことを共有したり、出身の地域について話したり、活用の可能性は利用者によって広がっていく。



### 3 いろはに文庫

地元住民や町内外の寄付で本を集め、蔵の一部を小さな図書室とする。木下家を図書室とするのは、大きな建築の中で一人ずつ自分の時間を過ごす図書館とは異なり、アットホームな雰囲気を作り出すことの可能性を感じるためである。本は年齢の差がなく幅広い年代に愛されているものである。この本の持つ魅力を通じて、いろいろな年齢の人々が集まって同じ空間でゆっくり本を楽しむことができる。



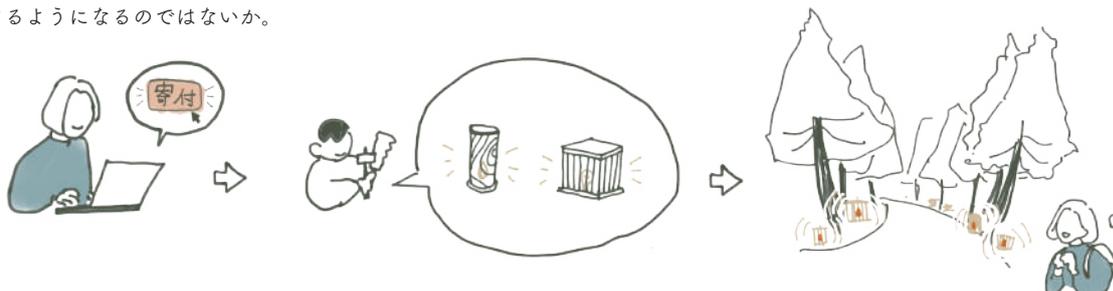
#### もく 木・もく・たたら今昔

これまで町民の目に触れられていなかった倉庫内にある木下家の文献や、当時の道具、たたら歴史、林業の歴史を蔵の一部に展示する。これらは現在にはない魅力の一つである。当時の様子がわかるように道具を展示し、世代間交流のあるいろはに文庫に隣接することで知っていることを次の世代に伝えていくという伝承が自然に行われるのではないかと考える。

### 4 あびれのともし火

日南町が抱える問題だと考えられる人口減少・高齢化は、地域づくりの担い手不足を引き起こす。上記の活用計画をより確実に持続可能なものにするためにも、地域外の人材が地域づくりの担い手となることを期待できる、関係人口の増加に着目した提案である。現在行っているふるさと納税のシステムに追加するよう形で行う。

納税者一人につき一つ、木下家と共に生きてきた200年の森に灯を灯してゆく。これを200年の森にある木を使って作る、「あびれのともし火」と呼ぶ。これが徐々に大きくなり、200年の森から旧木下家を照らし、日南町全体へと広がっていくことを期待する。建物自体の魅力をよく見える昼間に伝え、夜の活用を視野に入れることで地元民にとっては家族を越えた団欒の場となる可能性を持っている。他地域から来る人にとっては夜の雰囲気や、そこに集まった地元住民の雰囲気を感じることができ、移住のイメージをより明確に捉えることにつながっていくと考える。日南町に納税することで遠くに住んでいても自身が日南町を作っている一人なのだという実感を与え、同時にそれがきっかけで日南町を訪れたいと感じるようになるのではないかと考える。



#### 施設の運営方式

第一段階として、日南町の役員が管理・運営を行う。



仕組みや詳細な内容が町民に理解されるようになってきた頃から徐々に町民が主体となってボランティアという形で続けていくようにする。



#### 効果

地域課題である人口減少を解決するためには、地域外にアプローチするより前に**地域の人に魅力を感じてもらい、愛着を持ってもらう**ことが第一に必要である。地域住民が旧木下家を中心に賑わいを創出し、その延長上に地域外の人々へと広げていく。歴史のあるものは敷居が高く、近寄り難い印象を与えてしまうことが多いように感じる。そのような印象ではなく、温かみを持ち、町に、町民の生活に溶け込んで共に生きていく、**家族の枠を越えた団欒の場、「地域の茶の間」**として根付いていくことが期待できる。

本提案は旧木下家そのものの魅力と、その周辺に広がる日南町の豊かな自然を通して地域の問題を解決し、日南町の魅力発信のきっかけとなる。



愛着を持つ

地域外に広まる

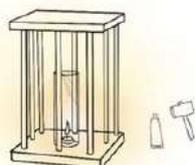
地域の茶の間として賑わう

あびれのともし火



い 旧木下家を灯す

ろ 200年の森を灯す



は あびれのともし火のイメージ  
 木工職人が作るもの、  
 子供でも簡単に作ることができるもの、  
 デザインの可能性は様々である。  
 いずれも200年の森の木を使って、  
 名前を入れたり、願いを書いたり、  
 思いを込めて作る。

## イ 長屋門

### なんぞかんぞストア

長屋門にある和室3間は、日用品や食品を取り扱う店舗として活用する。

既存の縁側の一部と和室12畳は三和土の土間にし、土足で出入りできるようにする。また、縁側は和室を囲むように配置し、買い物に訪れた人が気軽に休憩できるようにする。建具は現在は外されているようだが、改修後も同様に欄間と鴨居、柱を残し、建具は取り外す。和室6畳と8畳の間にある壁は現状の特徴に配慮しながら一部撤去し、開放的で明るい空間を目指す。

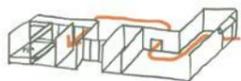
改修内容：縁側の一部移動、和室12畳を土間に変更、壁の一部撤去

### 管理者事務所、倉庫、作業所

長屋門の倉庫内には新たに管理者事務所と作業所を設ける。

倉庫では「なんぞかんぞストア」で扱う食品や日用品の保管をする。作業所は既存のシャッターを活かし、搬入口から荷受けし梱包等を行う。搬入から店舗までのスムーズな動線を実現させる。さらに、管理者事務所と倉庫の間には壁と引き戸を設けることで事務所としての環境を整える他、倉庫と行き来し易いようにする。

改修内容：柵の取り外し、壁・建具の新設



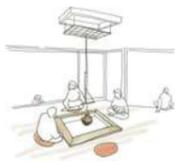
## ロ 南側母屋

### 囲炉裏

「囲炉裏を囲むみんなの憩いの場」をコンセプトとし、囲炉裏を中心としておためし町びとと地域住民の交流のきっかけをつくる場にする。

囲炉裏がある板の間と隣接する脱衣室と物入は撤去し板の間を拡張する。おためし町びとだけでなく地域住民も利用可能な空間として一定の広さを確保することが目的だ。囲炉裏を囲むことで地域の高齢者の話題が生まれ、歴史深い阿毘縁を体感できることを期待する。

改修内容：囲炉裏の取り付け、脱衣室と物入の撤去

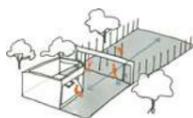


### 土間

囲炉裏に隣接する土間はおためし町びとのプライベートスペースと訪問者のパブリックスペースが混ざり合い、交流を生む中間領域として機能する。外部の土間とはガラスの引き戸で仕切られているため、ガラス戸を開けると外部の土間と一体化し、さらに多様な利用が可能となる。浴室となっていた場所には出入口を新設し、訪問者が使用する「まちの玄関」として活用していく。浴室は天井やタイルなど、貴重な意匠が残っているため、慎重に改修を行う必要がある。用途は変わるも

の、浴室として使われていたという痕跡をできる限り残し、後世に受け継いでいく。裏庭、多目的土間、買い物などの訪問者はここからトイレへアクセスできる。

改修内容：浴室の一部撤去、ガラス引き込み戸の新設、出入口の新設



### 水回り

水回りは既存の建物と調和するようインテリアには配慮しつつ、おためし町びとが快適に過ごせるように手を加える。

共有キッチンは既存のシステムキッチンを撤去し新たに取り付ける。おためし町びとと専用の浴室とトイレ、洗面所は一箇所にまとめて配置し、最新の設備を導入する。

改修内容：壁の撤去・新設、壁・床材の変更、キッチン・浴槽・洗面台・トイレの導入、建具の撤去

### おためし町びとの部屋

おためし町びとが各個人専用の部屋として使う居室は、図面に記載された通りである。プライベートが確保でき、すでに整えられた和室であることからこの2室を選定した。現段階では2室を居住空間として再整備し、今後は必要に応じて他の和室も整備していく。

改修内容：鍵の設置、空調設備の設置、収納の確保

## ハ 続座敷

玄関の西側に位置する3間続きの座敷は保存状態が良いため、手は加えずに多様な用途に対応できる空間にする。納戸が近いことから、用途に応じて物の出し入れがし易く、空間の用途変更が容易に可能である。ここでは新座敷よりは少し気楽にくつろいだり、遊んだりする場とする。屋内イベントや建物内の見学も積極的に受け入れていきたい。



## ニ 北側母屋

### さわさわひろば

北側母屋は「さわさわひろば」と名付け、200年の森遊歩道と連携した工房や骨董市や屋台の出店などのイベント会場として利用する。今後、積極的に活用していくため空間を整理し、壁が無く外と繋がった大空間を実現する。森と近い位置にあり、さらに土足で利用可能なため工房に適している。

改修内容：壁、柱、床の撤去

## ホ 新座敷

保存状態の良い新座敷はこのままの形で活用していく。もてなしの空間として造られ、旧木下家の中でも豪華な造りであることから、地域住民やおためし町びとと、観光客が集まり、参加するワークショップや習い事等の会場として利用する。炉や大人数が入れる空間を生かし、茶道や花道などの習い事を行う。母屋の囲炉裏や土間のように、多様な人々の交流が生まれる場となる。



## ヘ 土蔵(1)

### いろはに文庫

蔵の「保管する」という機能を活かし図書室として活用する。既存の棚や押入は本棚として利用し、蔵として使用されていた頃の痕跡も感じられるようにする。2階は、1階にも採光が取れるように吹き抜けをつくり、手すりも設置する。

改修内容 1F：いろはに... 棚の一部撤去、棚板の設置  
2F：一部吹き抜け、押入を本棚に変更

## モく 木・もく・たたら今昔

木下家の文献や蔵や、倉庫に放置されている道具、たたら歴史、林業の歴史等を展示する。木下家に訪れてもらうことだけでなく、歴史を伝えることも重要な役割である。1階と2階の図書館を経由する位置に配置し、気軽に歴史を学んでもらう。

改修内容：必要に応じてテーブルや棚を設置

## ト 庭

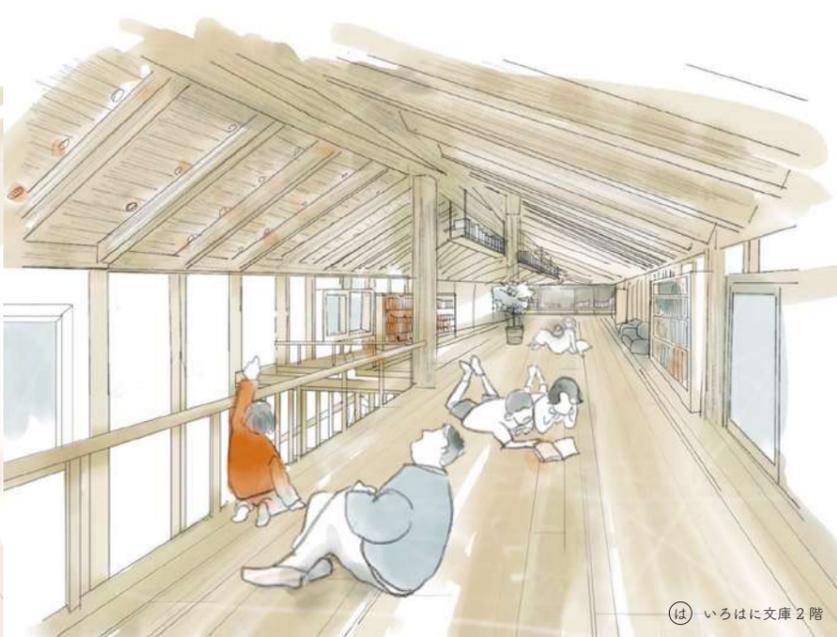
近隣の民家を見ると庭に花や木が植えられ、手入れが行き届いていた。旧木下家の庭にも植物を植え、敷地全体の雰囲気明るくする。庭の手入れは地域住民が主導で行う。日々の水やりや種まきによって、自分たちで守っていくという意識が高まり、建物への愛着がさらに湧くことを期待する。



① さわさわひろば



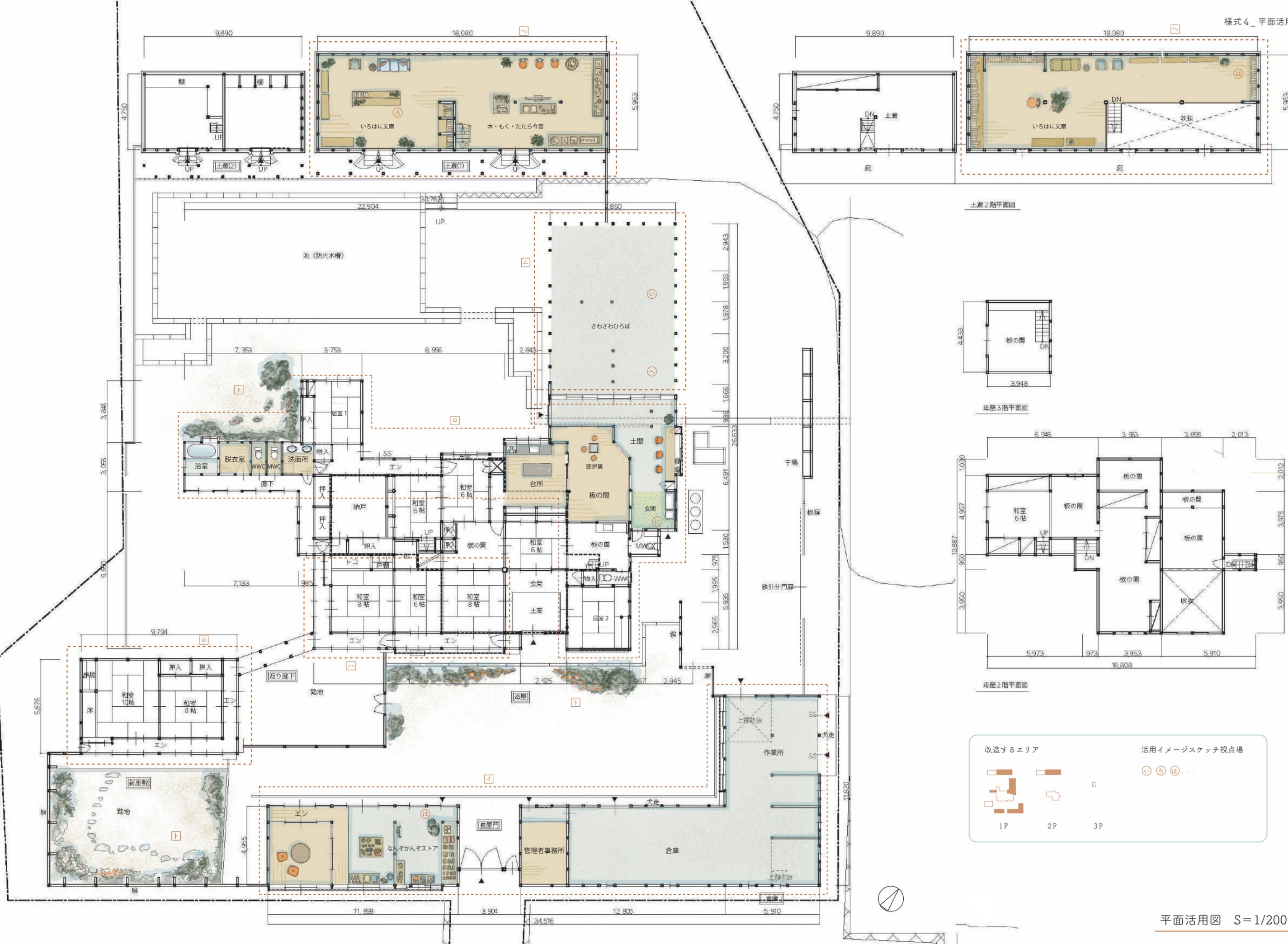
② いろはに文庫1階



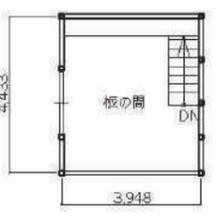
③ いろはに文庫2階



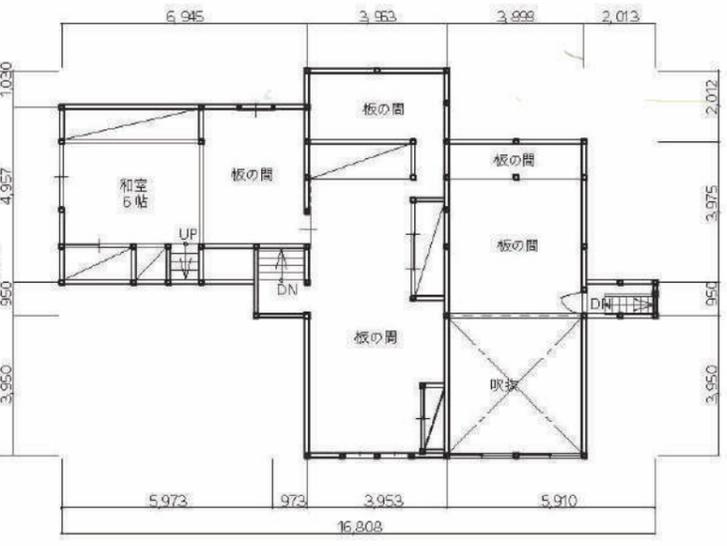
④ まちの玄関



土蔵2階平面図



母屋3階平面図

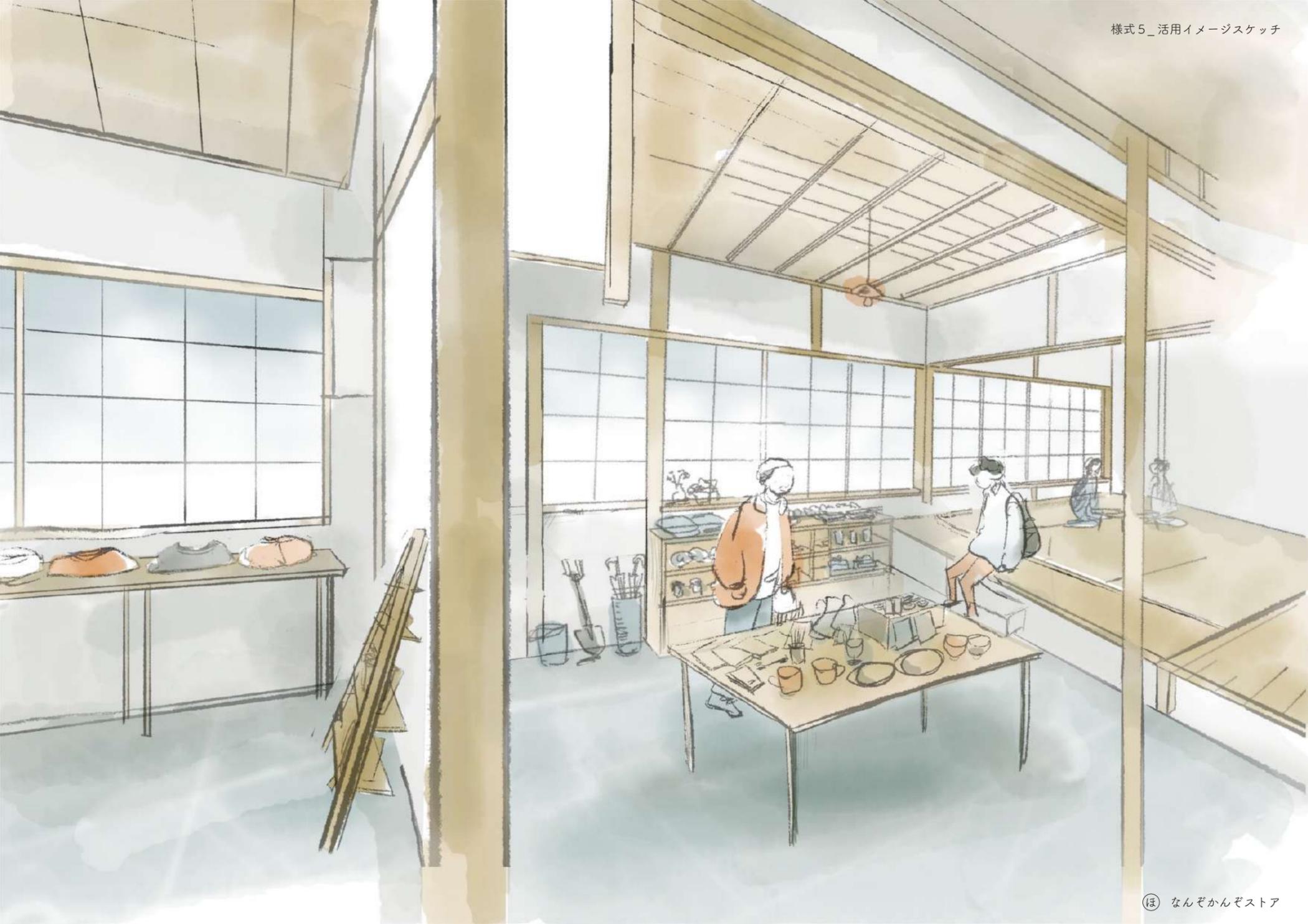


母屋2階平面図

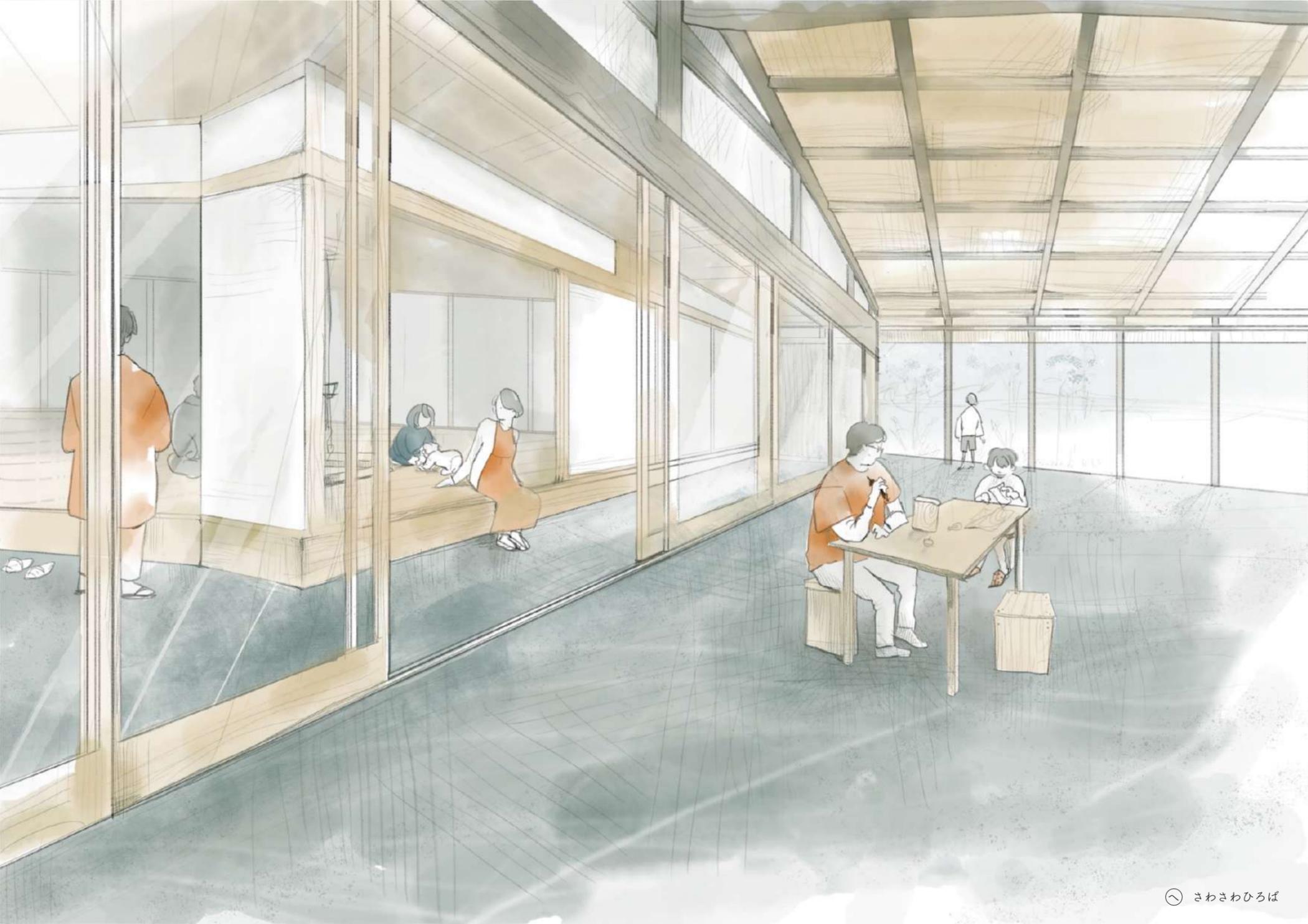
改造するエリア

活用イメージスケッチ視点場

1F 2F 3F



③ なんぞかんぞストア



④ さわさわひろば